

目次

監訳者まえがき	勝田正泰	1
まえがき		3

第1部 『傷寒論』の基礎

第1章 『傷寒論』序論	17
1 『傷寒論』の歴史の変遷	17
2 『傷寒論』とはどのような書か	19
3 六経の概念	21
4 六経弁証の方法	23
5 六経病の伝変	25
6 『傷寒論』の学習方法	27
第2章 六経病提綱証の意義	28
1 太陽病の提綱証	30
2 陽明病の提綱証	33
3 少陽病の提綱証	35
4 太陰病の提綱証	36
5 少陰病の提綱証	37
6 厥陰病の提綱証	38
第3章 六経について	41
1 整体観	44
2 弁証観	45

第4章 八綱弁証と六経弁証との関係	52
1 陰陽	53
2 表裏	55
1. 太陽病表裏証	55
2. 陽明病表裏証	56
3. 少陽病表裏証	57
4. 太陰病表裏証	58
5. 少陰病表裏証	58
6. 厥陰病表裏証	59
3 寒熱	60
1. 太陽病寒熱証	60
2. 陽明病寒熱証	61
3. 少陽病寒熱証	61
4. 太陰病寒熱証	62
5. 少陰病寒熱証	62
6. 厥陰病寒熱証	63
4 虚実	64
1. 太陽病虚実証	64
2. 陽明病虚実証	65
3. 少陽病虚実証	66
4. 太陰病虚実証	66
5. 少陰病虚実証	67
6. 厥陰病虚実証	68
第5章 『傷寒論』の治療法則と処方の特徴	70
1 『傷寒論』の治療法則	70
2 『傷寒論』の方剤の特徴	71
第6章 『傷寒論』の条文排列の意義	73
1. 「太陽病上篇」30条	74
2. 「太陽病中篇」97条	77
3. 「太陽病下篇」51条	84
4. 「陽明病篇」84条	89
5. 「少陽病篇」10条	95
6. 「太陰病篇」8条	96
7. 「少陰病篇」45条	97
8. 「厥陰病篇」56条	100
9. 「霍乱病篇」10条	103
10. 陰陽易癒後労復病篇	
7条	104

第7章 『傷寒論』の気化学説	106
1 太陽経病	109
2 陽明経病	110
3 少陽経病	112
4 太陰経病	112
5 少陰経病	113
6 厥陰経病	113

第2部 『傷寒論』の方剤

第1章 桂枝湯類	117
1 桂枝湯の適応証	117
2 桂枝湯の臨床応用	121
3 桂枝湯の加減応用	123
1 加味桂枝湯	123
1. 桂枝加桂湯	123
2. 桂枝加芍薬湯	124
3. 桂枝加葛根湯	125
4. 桂枝加人参湯（简称：新加湯）	126
5. 桂枝加附子湯	127
6. 桂枝加黄耆湯	127
7. 桂枝加栝蒌根湯	127
8. 桂枝加厚朴杏子湯	128
2 減味桂枝湯	128
桂枝去芍薬湯	128
3 加減桂枝湯	128
1. 桂枝去桂加茯苓白朮湯	128
2. 桂枝去芍薬加蜀漆牡蠣竜骨救逆湯	129
3. 桂枝去芍薬加附子湯	129

第2章 麻黄湯類	134
1 麻黄湯の適応証	134
2 麻黄湯の臨床応用	135
3 麻黄湯の加減応用	137
1. 小青竜湯	137
2. 大青竜湯	140
3. 葛根湯	142
第3章 柴胡湯類	146
1 小柴胡湯の適応症	146
2 小柴胡湯の加減証治	150
1. 柴胡加桂枝湯	150
2. 柴胡加芍薬湯	151
3. 柴胡桂枝湯	151
4. 柴胡去半夏加栝蒌根湯	153
5. 柴胡加茯苓湯	153
6. 柴陷合方	153
7. 柴胡姜味湯	154
8. 大柴胡湯	155
9. 柴胡加芒硝湯	156
10. 柴胡桂枝乾姜湯	156
11. 柴胡加竜骨牡蠣湯	158
12. 柴胡解毒湯*	159
13. 三石解毒湯*	159
14. 柴胡茵蔯蒿湯*	160
15. 柴胡竜甲湯*	160
16. 柴白湯*	161

第4章 承氣湯類	167
1. 大承氣湯	167
2. 小承氣湯	170
3. 調胃承氣湯	172
4. 麻子仁丸	173
5. 桃核承氣湯	174
6. 厚朴七物湯	176
7. 厚朴三物湯	177
8. 厚朴大黃湯	177
9. 大黃硝石湯	177
10. 大黃牡丹皮湯	178
11. 三一承氣湯*	179
12. 黃竜湯*	179
13. 増液承氣湯*	180
第5章 白虎湯類	186
1. 白虎湯	186
2. 白虎加人參湯	188
3. 白虎加桂枝湯	190
4. 竹葉石膏湯	191
5. 白虎加蒼朮湯*	193
6. 玉女煎*	194
7. 化斑湯*	195
第6章 理中湯類	199
1. 理中湯	199
2. 桂枝人參湯	201

3. 甘草乾姜湯	202
第7章 四逆湯類	207
1. 四逆湯	207
2. 四逆加人參湯	209
3. 通脈四逆湯	211
4. 通脈四逆加猪胆汁湯	212
5. 白通湯	213
6. 白通加猪胆汁湯	215
7. 乾姜附子湯	217
8. 茯苓四逆湯	218
9. 附子湯	219
第8章 苓桂劑	223
1 水氣の概念	224
2 水氣上衝の機序	225
3 水氣上衝の証治	228
1. 苓桂朮甘湯	229
2. 苓桂杏甘湯	229
3. 五苓散	230
4. 苓桂味甘湯	231
5. 苓桂姜甘湯	232
6. 苓桂棗甘湯	233
7. 苓桂杏苳湯*	234
8. 苓桂芥甘湯*	235
9. 苓桂茜紅湯*	236
10. 苓桂竜牡湯*	236

第9章 寒熱錯雜証に用いる方剤	242
1. 半夏瀉心湯	242
2. 附子瀉心湯	244
3. 黄連湯	245
4. 烏梅丸	246
5. 麻黄升麻湯	247
6. 乾姜黄芩黄连人参湯	250
第10章 経方運用の鍵は主証の把握にある	257
1 主証とはなにか、なぜ主証を先に把握せねばならないのか	258
2 主証を把握するとともに、兼証にも注目すべきである	259
3 変証の形成とその臨床的意義	260
4 挟雜証形成の特徴	261
5 主証を把握した経方の運用例	262
1. 小承気湯の証	262
2. 呉茱萸湯	263
3. 芍薬甘草湯	263
4. 黄連阿膠湯	264
5. 柴胡加竜骨牡蠣湯	265
6. 猪苓湯	266
人名・書名索引	271
方剤索引	272
用語索引	274
訳者あとがき	279

処方名に付されている*印は諸家方をさす。